

# 原発冷却水10人にかかる

## 敦賀2号機、点検中の作業員

日本原子力発電は30日、運転停止中の敦賀原発2号機（福井県敦賀市）で、点検中に放射性物質を含む1次冷却水が漏れ、協力会社の作業員10人にかかったと発表した。日本原発は、作業員への放射性物質による汚染や、周辺環境への影響はないと説明している。

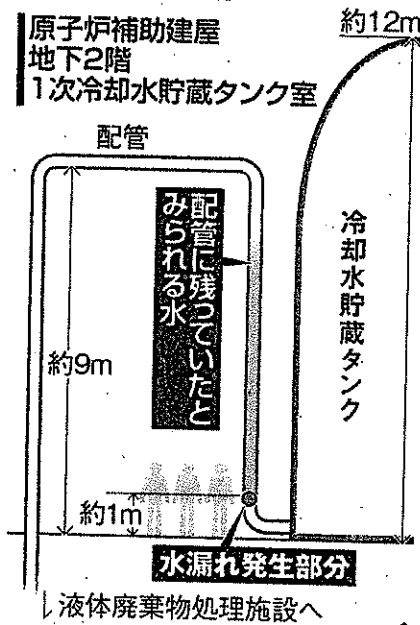
子炉補助建屋地下2階の1次冷却水貯蔵タンク室。30日午前10時50分ごろ、作業員がタンクの配管弁を分解点検するために弁のボルトを緩めると、高さ1メートルの弁と配管の接合部から水が噴出した。漏れた水は配管に残っていた推定約160リットル。水に含まれる放射能量は推定27万2千ベクレルで、国への事故報告基準の10分の

1以下だったが、日本原発は「微量ではない」としている。

作業員はすぐにその場から退避したが、現場にいた15人のうち、弁から半径2メートル以内のいた18歳60歳の10人に水がかかった。うち2人は顔に直接水がかかり、残りの8人は作業着にかかった。当時は布製の上下つなぎの作業着、ゴム手袋、

### 敦賀原発2号機の 水漏れした場所

原子炉補助建屋  
地下2階  
1次冷却水貯蔵タンク室



ヘルメット、防護メガネを装着していた。作業では弁からの水漏れを想定していたが、想定以上の水が配管に残っており、勢いよく噴出したとみられるという。

水を浴びた作業員10人について、放射線測定器などで検査した結果、身体の汚染や身体内部への放射性物質の吸入はなかった。水は常温で、けがはなかった。2号機は2011年5月に燃料が損傷したトラブルで運転を停止。そのまま同年8月から定期検査に入り、現在も停止したままになっている。（大野正智）